



## クリスマス・新年 おめでとう。

教会駐車場より撮影

島のひかり ホームページアドレス  
<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会  
 広報委員会  
 五島市平蔵町2716  
 TEL 0959-00072  
 印刷・(株)才津印刷所

## 生命のために 健康第一

主任司祭 眞浦 健吾

昨年は、自分の体の健康について考えさせられた年でした。自分の生命や健康をどう考えればよいのか。それは自分のものだから、自分の自由にしてもかまわないと考えてしまうのはいかなるものだろう。

教会は人間の生命について「生命は人間にとって神よりの最上のたまものである、他の諸価値の根源であり、これを処分できるものでなく、神から自身自身に委託された生命の使用者として、創造主である神から与えられた目的に従って使用する義務がある」(倫理神学概論、第一巻P762)と教える。

私たち人間には、自分の生命を自由に扱うことは出来ない。あくまでも、生命は創造主である神のものであり、神様から自分の親を通して与えられたもの

である。自分勝手に、自分の生命を、他者が自分のエゴのために、他者の命を、この世から無くすという事をしてはいけないのです。「なんじ、殺してはいけない」とこの神の掟も、自分の生命を絶つ、自死を禁じ、他者の生命を奪う殺人を禁じている。神様から与えられた生命と体を、生きている私たちがどう使うかによって、私たちの救いが与えられるかがわかると言えます。パウロが言うように「私たちの中には、誰も自分のために生きる者はなく、誰一人自分のために死ぬ人はいません。私たちは、生きるか死ねば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです」(ローマ14, 7-8)。神様を信じ、キリストに結ばれたものとして、自分に与えられた生命を神様のために使うこと、このことが生命に対する人間の務めと言えるでしょう。そのためには、やはり健康であることが大切ですし、体のためにいいことをたくさんするよう心がけましょう。

# 私たちの新たな決意 2011年

## 意識を持つ

赤尾 健野

明けましておめでとうございます。

この頃、老眼で、見るのも書くのも、面倒な日々を過ごしています。一年一年が早いもので、四十八才の年男です。三回目の年男の原稿は、初めてと言う物事の新鮮さがないと書いたような気がする。

今思えばいろんな意味関与がなかったと思う。あれから十二年。それなりに自分は成長したのか、と考える。子供の事、教会の事、地域の事……

それぞれに、少しは広い視野で、物事を見る事が出来るようになって来たと思う。しかし今一、行動が伴っていないような気がする。

その時々の場合に合った行動が取れればいいのだが、後から、こうすれば良かったと思う事が多いように思える。まだまだ自分自身の意識が足りない。まさに、心が動けば体も動く、思った時には体が動かない、と言う事が無いように、気をつけて、自分なりのやり方で頑張って行こう。

## 六十からのチャレンジ

浦 エミ子



明けましておめでとうございます。

今年卯年ということと私に新たな決意を書いて下さいと、原稿依頼が舞いこんで来ました。さあ大変、毎年にも考えず、ただ仕事と日々生活に追

われ、気が付いたら還暦が私にもやって来てしまった。

世間では五十から手習と言うかもしれないですが、私は六十からの手習でいろんなことにチャレンジしたいと思います。

体と頭がついて行くかわからないけど・・・ちなみに、地域の公民館の講座に参加して、パソコンを習って孫と、インターネットでもしたいと思っています。

## 新年会大盛り上り

一月九日、巷では正月気分も抜け始めたが、飲めば都。

役員を始め、教会・信徒の為に日々、奮闘する仲間、竹山議長のおいさつを皮切りに、一気にヒートアップ!!

会が始まって一時間後には、のど自慢大会に突入。教会コーラスで鍛えた猛者達は拍手と手拍子上手の観客に乘せられる様に次々と高得点をマーク。愉快な顔がいっぱい広がった。

## 投稿求む

島のひかり  
編集部一同

長きに渡り、当新聞を御愛読いただき感謝申し上げます。

浦頭教会地区出身の人達の活躍や住所録に触れる機会があるたび、日本全土に浦頭教会に関わった信徒の広がりを実感します。島のひかり編集部では、地区信徒を含めた読者に、出来るだけふる里、特に浦頭教会の今を伝え、又、読者が知りたい情報（主に浦頭教会関係）を、正確に、そして興味を持ってもらう様に誌面を充実させたいと思っています。その為にも、日本全土に広がった読者の皆様の情報、おたよりを私達、編集部に送って下されば、本当にうれしく感じます。皆さんは、仕事等で本当に忙しい日々をおくっているとおもいます。そんな中、恐縮ですが、ぜひとも皆様が日々を過ごす地での様子を書き送って下されば幸いです。よろしくお願いいたします。

## 巡礼団来島

まずは、10月15日、神戸教会より40名の信徒が来島し、朝8時30分より、堂崎天主堂でミサをして、午前中は楠原教会を巡礼し、午後、久賀島に渡った。

10月19日は、パスクアル神父様、信徒代表の坂上富士夫さん以下14名が、浦頭教会を巡礼し聖母月の月でもあったので、ロザリオにも参加して頂き5時30



分よりパスクアル神父様によるミサ、その後、神羊館ホールにて、シメオン・アンナ会による沢山の手料理が並ぶ中、宝塚教

会信徒、浦頭教会役員、シメオン・アンナ会による交流会が行なわれた。会は大いに盛り上がり、時間も一時間延長となった。この日、惜しくも眞浦神父様は病気のため、長崎の病院に入院中で、寂しさを隠しきれないこの日の交流会でした。



## 下五島地区評議会 役員研修会

10月24日午後一時より福江教会に於いて研修会が開催された。

長崎より小瀬良神父様、中浜神父様の御指導を受けながら、福江教会、浦頭教会、水の浦教

会、三井楽教会、井持浦教会、奈留教会、浜脇協会、それぞれの役員、信徒が参加した。

浦頭教会からは16名の役員が参加し、「信徒の奉仕職」についての討議が、11グループの分会に分かれて行なわれた。

討議の結果については、長崎教区より後日あります。

## 牢屋の窄殉教祭

毎年行なわれる殉教祭、今年も10月31日開催された。

今年、久賀の方に送迎する車がない。と言うことで、足に自信のない方は遠慮して頂いたのですが、久賀（浜脇）に着くと浜脇教会の議長さんが、迎えてくれました。一言「今日は天候不順のため、牢屋の窄には行列しません。浜脇教会でミサをします。」信徒は「エーせっかく張り切って運動靴を履いてきたのに。」と言う事で、浦頭教会からは20名の参加にとどまりました。

## 福江教会で講演会

11月21日1時30分より、高松教区の溝部司教様をお迎えして「初期キリシタン時代の宣教」についての講話があった。

これより資料より抜粋します  
洗礼準備期間

キリスト教への関心を日本人に抱かせ、好意を持たせるのは大切なことであった。そのためにも仏教とのかわりは欠かせなかった。フランシスコ・ザビエルは、鹿児島に到着した直後から仏僧との関係をもった。

また彼は仏教用語を用いてキリスト教を教えることさえした。しかし、日本での体験を重ねるにつれ、仏教用語では誤解を招く恐れがあることが自然と分かかってきて、用語を選ぶのに慎重になった。宣教師たちは日本での宣教に必要なものを学んでいた。宗論の主な争点は次の通りである。

一、キリスト教のみに救いがある。

ること。従って仏教、その他の宗教には救いがないこと。  
二、唯一の神が存在すること。従って多神教を兆斥する。  
三、霊魂は不滅であること。輪廻には根拠がなく、人は一回限りの人生を送り、死後には永遠の生命があること。

その他、様々な日本歴史についてこと細かに話された。

## 浦頭教会献堂 小教区発足45周年

これに伴い、この事業を行なうことを評議会で決定し行なうことにした。

- 一、教会トイレを水洗化する。
- 二、教会裏の駐車スペースを拡張する（高齢化に伴ない）
- 三、浦頭教会、宮原教会、半泊教会に案内板を設置。

四、神羊館二階トイレの修復工事。これについては、クリスマス会までに完了。（日労働金で賄う。）

以上の事業について各戸よりの拠出をお願いするため、地区集会を10月17日浦頭を最初に、11月7日宮原を最後に皆様の賛同を得て無事終了することができた。拠出の金額については信徒総額で明確にする。皆様の御協力ありがとうございます。

## 教会大清掃

11月28日、待降節に入り教会では、クリスマスの準備のために10時より、イルミネーション飾り付け、ツリー、馬小屋、窓拭き、庭木の剪定、草刈等……全信徒で手分けして行なわれたそれぞれに特技を生かし、手早く短時間で終える事が出来た。夜になると教会の電飾が、ひときわ美しい。

クリスマスの誕生を祝うと共に私達も清い心で準備しましょう。



## 奥浦混声合唱団 結成20周年記念 クリスマスコンサート(12/5)

### プログラム

- ・懐かしの曲
  - ・プロジェクターで「あの時！」
  - ・ミサ曲
- 「本番に強い」は20年の賜物かな？

### ☆コールアンジェラス

シスターはやっぱりちがう心にしみました  
「私たちのしていることは」他

### 賛助出演



### ☆元気ハツラツ!!

奥浦小ここにあ〜り「広い世界」他



### ☆こだわりの琴で 中学生たちが

「和もおっなも」他



(ビデオ等の問合せ 福江ケーブルテレビ(0959)74-5775まで)

午後四時開演、教会のミサにも数年こられていた平山泰雄先生の指揮にて「野に咲く花」「シクラメンのかおり」「長崎の鐘」などおなじみの曲が続き途中、中学生による琴の演奏。いまだきの若者もやる時はやるのです。シスターの歌声はファンもいて納得。小学生は元気光線でK・O勝：映像による20年。ヤングボーイ♡ガールが!!懐かしいあの人々が笑顔があった。さあミサ曲。平山先生は奥浦小定年後、音楽三昧、特に教会のミサ曲が大好き!!団員に連鎖、「愛の賛歌」もあり、渾身の「グロリア」最後は「流浪の民」!!いつしか外に電飾が輝きノアの箱舟を模した聖堂はミュージックボックスに!!皆で「もろびとこぞりて」帰路は満天の星がおみおくり：結成20年、「継続は力なり」原点は神羊館での初練習、メンバーは奥浦在住が1/3、信者1/4と変化。変わらぬ地域のあたたかい支援があつてこそその奥浦混声合唱団だと団長さん。もっか団員募集中とか、皆さんいかがですか？

## 教会のクリスマス会

毎年恒例のクリスマス会が、今年も二十五日のミサ後に、神羊館のホールに集い賑わった。婦人会は、前日よりおでん作りと、出し物の踊りで大忙し、高校生もお菓子の販売に協力。



婦人会一同

いよいよ会が始まり、先頭を飾って、地元のグループ野菊会の大正琴の演奏で盛り上がりを見せた。保育園の可愛らしい舞踊に目を細める。他に地元以外からも数名参加して頂き、オカリナ演奏、カラオケ、新垣夫妻

による三線による沖縄民謡等など、クリスマス会を大いに盛り上げてくれた。小学生のコーラス、中学生の手工品、なんとこちらも婦人会による「ひよっこりひょうたん島」の踊りは好評であった。

最後にお楽しみみの抽選会では、当って大喜びの人、当たらなくて、溜め息をつく人、始めからあきらめている人、様々でしたが、楽しいひとときでした。賞品を提供して頂いた方々に感謝です。関係者の皆様、御苦労さまでした。



鍋内玖怜彩、山崎 里、中里祐月

## 慈恵院クリスマス会



十二月十八日、奥浦慈恵院では恒例のクリスマス会が催された。奥小・奥中の先生方を始め、招待された人達は、いつも子供達と院の先生方の圧倒的なパフォーマンスに驚かされるのだが、今回はいつもにも増して、子供達の演技は光を放っていた。

幼児の子供達は魅力的な愛敬をふりまきながらも、よく合った踊りをみせれば、年長者が先生役をした学園ドラマでは、息の合った即興のやり取りを見せ、客席に笑いの渦を巻き起こした。

圧巻は、小学生低学年から、高校三年生まで参加した、今や時代を代表するグループ、エグザイルの踊りの披露だ。舞台狭しと、プロ顔負けに跳び、跳ね、魅せた。見る者に笑顔と元気を一杯注ぎ込んでくれたそんな夕べだった。……感謝……

## 平和のばら保育園 クリスマスおゆうぎ会

保育園恒例のクリスマスおゆうぎ会が、12月12日(日)に開催されました。まずまずのお天気で、会場は園児たちの保護者、祖父母、親戚など、一人に数人の応援団と、地域や慈恵院の方々がぎっしり。すっかりはりきった園児たちは、緊張しながらも、練習の成果を発揮できて満足でした。本年度の園児は低年齢児が多く、会場はかわいさに癒されたようです。来年は、聖母祭、運動会、おゆうぎ会に、地域や教会の皆さんの応援が増えることを期待しています。



聖劇「ほんとうのおくりもの」  
の一場面

# 島田喜蔵神父ものがたり(V)

## 司祭叙階

長崎ウエスレヤン大学講師 (非常勤)

加藤久雄

島田喜蔵助祭は、31歳になった1887(明治20)年の3月17日、大浦天主堂においてクラン司教により司祭として叙階された。五島列島出身の初めての司祭になったのである。叙階後、五島で初ミサをおこなうために母とともに、親戚の上五島野崎島の瀬戸脇に住む親せきの新造の大型の櫓船で迎えられ、ラゲ神父らとも同乗して早朝に五島へ出発した。80キロの五島灘を一気に渡りその日のうちに中通島の江袋に到着することを予定していた。五島灘の途中で二艘の櫓船によって引き立ててもらった。その日、江袋の山頂には見張りがおかれ、神父が乗った船を東の海に見つけるとホラ貝で合図し、フレノー神父とマルマン神父の指揮で、若者たち

が漕ぐ十艘の櫓船がさしむけられた。野崎島を通る頃、さらに十艘の船と出会い、島田神父の祝福を受けると、勇ましく三段で引き立てるのである。江袋に着いたのは夕方であったが、浜辺から聖堂まで埋めつくされた五島各地から集まった信者によって篤く歓迎されたのであった。

到着してすぐに神父は父の墓前で祈りをささげた。翌日、江袋の聖堂で初ミサをささげた。その後歓迎の祝宴の後、神父方での話し合いがおこなわれ、五島最初の神父であるので中五島と下五島でもミサをおこなってほしい、という下五島主任のマルマン神父の希望により、中五島と下五島でミサをおこなうことになった。まず、下五島福江島の水ノ浦の天主堂で、帰りに中五島若松島の大平天主堂でミサをささげて、西海を通り江袋に帰ってきた。



中五島若松島・大平天主堂

### 秘跡

○永遠のやすらぎを

二〇一〇年十二月二十八日

マリアマグダレナ 入口 ハツ

96才 堂崎

### おたより

いつも島のひかりをお送り下さいましてありがとうございます。神父様はじめ信徒のみな様のご活躍を拝見し、喜んで読ませていただいています。

長崎市 Sr浜口 昌子

### ありがとう

長崎市	中瀬勝弘様
長崎市	Sr浜口昌子様
浜泊	富上進様
神戸市	峯下喜美代様
岩瀬浦	峯下笑子様
佐世保	松田トミ子様
奈良県	岩橋京子様
東京都	中嶋春代様
岡山県	鍋内信幸様

## 宝塚教会

創立50周年記念巡礼ツアー

参加者一同様からのお便り

10月27日

## 十主の平和

この度の五島巡礼では、大変お世話に与り、有難うございました。当日は眞浦神父様が急にご入院されました日で、私共信徒は驚きと共に心から神父様の速やかなご快復を祈らせていただきました。昨日、ツアーコンダクターよりご退院との良いお知らせがあったと連絡が入り、一安心致しましたが今後共、どうぞくれぐれも御身お大切になさっていただきたいと願っております。

美しい浦頭教会聖堂で子供さん方、シスター方、信徒の皆様とご一緒にロザリオの祈り、御ミサに与れました事は本当に大きなお恵みでございました。そして、眞浦神父様のため、当教会主任司祭パスクアル師が語りかけられ、まさに心を一つにし

て祈らせていただく事が出来ました。

御ミサの後、信者さま方のお心づくしのお食事会にお招きいただき、全てお作りのご馳走の数々、採れたての鮮魚、海藻と、宝塚ではとても味わえない美味しい品々に感動と感謝の気持ちで一杯になりながら、ご馳走にならせていただきました。

季節の移り変わりが激しく、急に冷え込んでまいりました。神父様はじめ、皆様方がお元気で活躍下さいますよう、心よりお祈り申し上げます。



宝塚教会の外観

## アコースティック・コンサート

in 浦頭教会

年の瀬の迫る12月12日、前週の奥浦混声合唱団に続き浦頭教会にて教会コンサートが行なわれた。

主催は長崎のNPO法人ワニープロダクションで、田上和代さん（田上長崎市長の奥様）を中心に活動しておられる。

当日は、数組の演奏者によりクリスマス曲やオリジナル曲の披露がされた。

今回のコンサートは、五島市岐宿出身の田上長崎市長と中尾五島市長の懇談のなかで実現したもので、コンサートには田上長崎市長も駆けつけられた。

長崎からも演奏者の応援団が多数来島され、会場の雰囲気盛り上げていた。



## ふる里だより

## 雪の記憶（大晦日・記録的降雪。）

……雑感……思い出をたどって……戸を開けて目に飛びこんだのは一面の白。銀世界の中に景色があった。シーンという音が耳にこだまする。

大晦日の朝は、記憶の糸をたどっても届かない程の大雪が大地を覆った。（浦頭平地で十四cm記録）

ヨハネ・パウロ六世の長崎訪問。天から地まで白に染められた空間の中に、一条の光が雲の合い間から静かに、木漏れ日のごとく差し込んだ。教皇様を乗せた車が進んだ。

子供の頃、今よりずっと寒かった様な記憶がある。家のひさしには、つららが連なり、そのとんがった先からしたり落ちる水と水との時をじっと見つめていた。透明な氷柱は不思議さをたたえながら、寒さの中に毅然

として並んでいた。家の中は今程、暖かくはなかったけれど、台所から一間置いて、一段上った畳の室には、囲炉裏があり、冬の寒さの中で、ぽっと暖かさを運んでくれていた。

寒気の中に佇むと、臍おぼろげにふと思ひ出すことがある。それは優しい祖母の顔と、舞い落ちる雪の場面から始まる。「疲れたねー。そこに座ろうか。」

「こっば、食べれ。」お菓子か小さなにぎりだったか、はっきりに思ひ出せない……。「さあ、立って行こうか。」

二人は歩き出した。そこから先の記憶はない。ただ、凍える様な寒さの感触が残った。

雪の朝、大地を踏みしめて歩く。キョッ、キョッという音がなつかしさと共に胸に浸みいつてくる。山々も白い雪を抱き、いつも見なれている世界が、まるで異国の遠き雪国を覗みている様な、ひんやりとした透明感を、心に映し出していった。

## 南河原をさるく

十二月五日、「第四回さるく」が催された。泉松市先生を講師に迎え、キリスト教復活の地平蔵、キリスト教徒上陸の地六方、そして、寛政の開拓の地南河原をさるいた。地域の子ども達をはじめ、約百二十名程の参加があり、現代の私達とは比べものにならない程の先人達の厚い信仰に触れた一日であった。

南河原公民館では、南河原町内会のご厚意により豚汁をごちそうになり、体力をつけた後は中入を抜ける山道を通り、帰路についた。



その昔平蔵にも教会があったと！

## 風のづいとく

去る、十二月二十一日、スポーツフェスタ イン 奥浦が開催された。マラソンの部では、小学五年生の浜崎壺成君が大会新記録を達成し、中学女子の梅木萌美さんと鍋内麻美さんの、一位を争うデッドヒートがあった。で、会場を盛り上げてくれた。



よかもん市のひとこま

「うまい」と評判の小中PTAのお母さん達の作るうどんに心と体を温めた後は、小学生を対象としたペタンク大会で楽しい一日を過ごした。

## 編集後記

大雪のお正月を向えたのは15年振りとか、日頃に見慣れた山野でも雪化粧の風景はまた格別な趣きあるものです。

「失われた10年あるいは20年」と言われ、閉塞感が漂う中に、まだまだ残っているよ、他の人を思いやる温かい心、熱い気持のタイガーマスクこと伊達直人。誰かから受けた恩を直接返すのではなく、別の人に送る。その人がまた別の人に渡す。恩がぐるぐる世の中を回る。

また「トイレの神様」の歌など。私達が忘れかけているかもしれないぬものを、呼び戻すようです。

今年もよろしく願います。  
「島のひかり」編集部一同

